
第8期 相模原市緑区区民会議 活動報告まとめ



相模原市緑区区民会議
令和8年7月

第8期 緑区区民会議のまとめにあたって

緑区の目指す姿は「実る緑区」です。第8期緑区区民会議では、その実現に向けた歩みを止めることなく、現行の緑区基本計画を振り返りながら、次の時代の緑区のあり方について議論を重ねてまいりました。

緑区区民会議では、「育て合う・学び合う」「認め合う・支え合う」「守り合う・助け合う」など、緑区基本計画の6つの取組目標ごとに意見交換を行いました。また、リニア中央新幹線神奈川県駅建設現場や中山間地域の視察を通じて、都市部と豊かな自然が共存する緑区ならではの魅力や課題を改めて共有しました。さらに、第7期から始まった法政大学との連携による学生目線の情報発信プロジェクトも本格的に始動し、若者ならではの視点で緑区の魅力を発信する取組がスタートしました。

「実」という文字には、「みちる」「みのる」という意味があります。緑区には、豊かな自然、歴史・文化、人、産業など、多様な地域資源があります。これらの地域資源という「実」を育み、次世代へつないでいくためには、行政だけでなく、区民、地域団体、事業者、若者など、多様な主体が力を合わせることが重要です。第8期緑区区民会議は、そのための対話と協働の場として、大きな役割を果たすことができたと考えています。

本報告書には、第8期緑区区民会議で交わされた議論や活動の成果を取りまとめました。本報告書が、次期緑区基本計画の検討や、今後の地域づくりを進める上での一助となれば幸いです。

最後になりますが、第8期緑区区民会議の活動は、委員の皆様をはじめ、多くの関係者のご理解とご協力によって支えられてまいりました。心より感謝申し上げます。今後も「実る緑区」の実現に向けて、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年7月

相模原市緑区区民会議
会長 牧瀬 稔

区民会議の目的

区民会議は、政令指定都市移行に伴い施行された区制の導入にあわせて、各区の課題やまちづくりの方向性について協議を行う場として設置された附属機関（注1）で、区域内のまちづくりに関する次のような事項について話し合ったり、提案したりする機関です。

【区民会議における協議事項の例】

- 市長より諮問される事項 ○緑区基本計画の推進に関すること
- その他区民会議の目的達成に必要な事項

（注1）附属機関

附属機関は、法律や条例に基づき設置されるもので、市民や専門家の意見を行政に反映させるため、審査や調査などを行う機関のことです。

緑区の区民会議（これまでの経過）

第1期（平成22年7月から平成24年7月まで）においては、区の将来像や協働によるまちづくりの指針となる「区ビジョン」の策定に向け、市長からの諮問を受け、緑区の特色や課題、将来の方向性等について協議を重ね「緑区区ビジョン」として答申いたしました。

第2期（平成24年7月から平成26年7月まで）では、「緑区区ビジョン」で掲げた区のめざす将来像『地域の個性が輝き 活力あふれる交流のふるさと緑区』の実現に向け、テーマを設けて区ビジョンの推進方策について協議を行いました。

第3期（平成26年7月から平成28年7月まで）では、人口減少や少子高齢化の進行が予測される区の状況を勘案し、観光をテーマにした「未来を拓く活性化検討小委員会」と定住をテーマにした「魅力ある地域コミュニティ検討小委員会」の2つの小委員会を設け、区ビジョンの推進に向けた具体的な方策について協議を行いました。

第4期（平成28年7月から平成30年7月まで）では、「緑区区ビジョン」の評価を班に分かれて行い、区の共通の課題として、地域の情報を一括で発信する必要性などが挙げられるなど、更なる区ビジョンの推進に向けた対応方策について、協議を行いました。

第5期（平成30年7月から令和2年7月まで）では、第1期において、協議を重ねた「区ビジョン（平成24年度～平成31年度）」の趣旨を継承しつつ、人口減少と超高齢化という大きな課題に対し、活力や魅力あるまちづくりが持続的にすすめられるよう、区の目指す姿を定め、取組の方向を示した「緑区基本計画」について、市長からの諮問を受け、答申いたしました。

第6期（令和2年7月から令和4年7月まで）では、緑区特有の課題である「中山間地域の振興」をテーマとして、地域の魅力を生かした施策の検討を進め、「中山間地域の振興にかかる提言書」を作成し、市長へ提出いたしました。

第7期（令和4年7月から令和6年7月まで）では、「緑区の一体性をつくるための情報発信」をテーマに、各施設の視察等による地域の魅力抽出、情報発信課題を協議するとともに、若者による区民会議を開催し、法政大学と連携してSNS活用の魅力発信事業の準備を開始しました。

第8期緑区区民会議の活動内容

第1回では、第8期区民会議のスタートに当たり、委員同士が顔合わせを行うとともに、会長・副会長を選出しました。また、緑区基本計画や区民会議の役割を確認し、第8期では地域の現状を学びながら議論を進めることを共有しました。

第2回では、地域の課題や魅力の把握を目的として、緑区内を実際に視察し、リニア中央新幹線駅建設現場や相模川清流の里、若葉台地区のグリーンスローモビリティ、森のイノベーションラボFUJINOなどを見学しました。委員は、地域ごとの特色や課題を自分の目で確認し、今後の議論の土台となる共通認識を深めました。

第3回では、第2回の区内視察を振り返り、緑区の魅力や課題について意見交換を行いました。特に、森のイノベーションラボFUJINOの取組を通じて、地域課題を新しい発想や人とのつながりで解決することの重要性を共有しました。また、緑区の魅力を広く発信するためには、若い世代にも伝わる情報発信の工夫が必要であるとの認識で一致しました。

第4回では、「育て合う・学び合う」をテーマに、子どもや若者を地域全体で育てることの大切さについて話し合いました。高校生による地域PRや地域との連携事例も紹介され、学校だけではなく、自治会や地域団体などが協力して子どもの成長を支えることが重要であるとの認識を共有しました。また、若者が地域への愛着を持つきっかけづくりの必要性も確認されました。

第5回では、「認め合う・支え合う」をテーマに、医療、福祉、健康づくりについて幅広く意見交換を行いました。高齢者などの移動手段の確保や、自然環境を生かした健康づくり、地域の実情に応じた支援の必要性など、多様な視点から議論が行われました。また、橋本地域と中山間地域では課題が異なることを踏まえ、それぞれの特色に応じた施策を考えることが重要であるとの認識で一致しました。

第6回では、「守り合う・助け合う」をテーマに、防災・防犯を中心とした議論を行いました。地域では防災訓練や防犯活動が継続的に行われている一方、橋本地域や中山間地域では抱える課題が異なることが確認されました。また、災害時には行政だけでなく、日頃から地域住民同士が顔の見える関係を築き、助け合える体制を整えておくことが重要であるとの認識を共有しました。

第7回では、「創り合う・つながり合う」をテーマに、地域経済や交流、地域への愛着について議論しました。若い世代が地域に関わるきっかけづくりや、地域の歴史・文化を知ることの重要性、緑区らしい魅力を発信していく必要性など、多くの意見が出されました。また、人と人とのつながりが地域の活力につながることを改めて確認しました。

第8回では、「自然と共存し、生かし合う」「交流し、高め合う」をテーマに議論しました。森林や農林業を守る担い手不足、自然災害への対応、地域ごとの特性に応じた取組など、多くの課題が共有されました。また、自然環境は観光や地域振興にもつながる重要な資源であり、行政と地域住民が協力して未来へ引き継いでいくことが大切であるとの認識で一致しました。

第9回では、第8期区民会議全体を振り返り、これまでの議論を整理しました。委員からは、都市部と中山間地域では課題や必要な施策が異なるため、次期基本計画では地域の特性をより反映した内容とすることが望ましいとの意見が多く出されました。また、緑区単位での統計データの充実や、広域的な観光の視点を取り入れることなど、今後の計画づくりに向けた具体的な提案が示されました。

■第8期緑区区民会議の総括

第8期緑区区民会議では、緑区基本計画に沿って、約2年間にわたり幅広いテーマについて継続的な議論を行いました。

第1回では、区民会議の役割や進め方を確認し、第2回では区内視察を通じて、リニア中央新幹線駅建設現場や中山間地域などを実際に訪れ、緑区の現状や魅力、課題を共有しました。第3回では、その視察結果を踏まえ、地域資源を生かしたまちづくりや情報発信の重要性について意見を交わしました。

その後は、緑区基本計画の六つの取組目標に沿って議論を進めました。「育て合う・学び合う」では、地域全体で子どもや若者を育てることの大切さ、「認め合う・支え合う」では、高齢者福祉や医療、健康づくり、「守り合う・助け合う」では、防災・防犯と地域の支え合いについて、それぞれ活発な意見交換が行われました。

さらに、「創り合う・つながり合う」では、地域経済や交流人口、若者の地域参加について、「自然と共存し、生かし合う」「交流し、高め合う」では、豊かな自然環境の保全や農林業の振興、観光や広域連携について議論を深めました。

議論を通じて、一貫して共有されたのは、「緑区は一つでありながら、橋本地域などの都市部と、城山・津久井・相模湖・藤野などの中山間地域等では、地域特性や課題が大きく異なる」という認識でした。そのため、一律の施策ではなく、それぞれの地域に応じたきめ細かな取組が必要であるとの意見が数多く出されました。

また、行政だけで課題を解決するのではなく、自治会、学校、企業、各種団体、ボランティア、そして区民一人ひとりが連携し、それぞれの立場で力を発揮する「協働のまちづくり」が重要であることも、全ての議論に共通する考え方となりました。

第8期区民会議は、地域の現場を知り、多様な立場の委員が意見を交わしながら、緑区の未来をともに考えた貴重な機会となりました。今後は、第8期で蓄積された議論や提案を第9期区民会議へ着実に引き継ぐとともに、都市部と中山間地域それぞれの特性を生かしたまちづくりをさらに推進し、誰もが「住み続けたい」「訪れたい」と感じられる緑区の実現につなげていくことが期待されます。

●区内視察の実施

日 時：令和6年10月30日（水）午前9時30分～午後5時

場 所：リニア中央新幹線神奈川県駅建設現場、相模川清流の里、若葉台自治会館、森のイノベーションラボ FUJINO

内 容：橋本地域では、緑区の発展に寄与するリニア中央新幹線神奈川県駅の建設現場を視察しました。

また、若葉台地区では、環境への負荷が少なく、狭い路地も通行可能なことから、高齢者や観光客の移動手段として期待されるグリーンスローモビリティを見学した他、森のイノベーションラボ FUJINO 等を視察し、野生動物との共生に係る活動等、地域への理解を深めました。



●「SNS 等を活用した情報発信」小委員会

事業名：学生目線の緑区 PR 推進プロジェクト事業

目 的：学生、子育て世代に向けた緑区の魅力を今までの行政になかった若者の視点で PR を行うことで、緑区の認知度向上及び移住定住の促進を図る。併せて、若者と地域住民が協力して事業を行うことを通して、緑区の一体感の醸成を図る。

手 法：若者の目線による「緑区の PR」企画を募集、若者の主導で実施し、市及び緑区区民会議委員有志は必要に応じて、それをサポートする。

協 力：法政大学ソーシャル・イノベーションセンター

事業実績：SNS アカウントを新規に開設し、「緑区の PR」に資する記事の投稿・PR を実施した。



第8期 緑区区民会議開催状況

回次	開催日	出席者数	傍聴者数	審 議 内 容
1	令和6年8月21日	21	0	・緑区基本計画について ・第8期緑区区民会議の進め方について
2	令和6年10月30日	19	—	・区内視察の実施
3	令和7年1月14日	19	0	・区内視察結果について ・情報発信事業の進捗状況について
4	令和7年3月25日	21	0	・緑区基本計画の進捗状況について - 取組目標Ⅰ「育て合う・学び合う」
5	令和7年6月17日	16	0	・緑区基本計画の進捗状況について - 取組目標Ⅱ「認め合う・支え合う」
6	令和7年9月9日	12	0	・緑区基本計画の進捗状況について - 取組目標Ⅲ「守り合う・助け合う」
7	令和7年11月10日	14	1	・緑区基本計画の進捗状況について - 取組目標Ⅳ「創り合う・つながり合う」
8	令和7年12月24日	14	0	・緑区基本計画の進捗状況について - 取組目標Ⅴ「自然と共存し、生かし合う」 - 取組目標Ⅵ「交流し、高め合う」
9	令和8年6月2日	16	0	・緑区基本計画の進捗状況について （総評）
10	令和8年7月14日	17	0	・活動まとめ（案）について
合計		延169人	延1人	

第8期 緑区区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

任期：令和6年7月30日～令和8年7月29日

	氏 名	所 属 等	備 考
1	牧瀬 稔	学識経験者（関東学院大学教授）	会長
2	森 誠壽（～R7.6.25）	橋本地区まちづくり会議	副会長
	田野倉 義信（R7.6.26～）		
3	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議	
4	小島 盛生（～R7.4.23）	城山地区まちづくり会議	
	林 和博（R7.4.24～）		
5	熊谷 弘（～R7.5.19）	津久井地区まちづくり会議	
	関戸 仁（R7.5.20～）		
6	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議	
7	宮野 善三郎（～R8.4.26）	藤野地区まちづくり会議	
	佐藤 裕幸（R8.4.27～）		
8	松井 光臣（～R7.5.18）	相模原市22地区社会福祉協議会緑区連絡会	
	石井 敏夫（R7.5.19～）		
9	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会	
10	佐藤 稔	相模原市PTA連絡協議会	
11	池田 孝夫	相模原商工会議所	
12	森下 裕司	津久井地域商工会連絡協議会	
13	原 幹朗	公益社団法人相模原市観光協会	
14	沼尾 将輝	公益社団法人相模原青年会議所	
15	川原 諒介（～R6.12.31）	公益社団法人津久井青年会議所	
	畑野 栄久（R7.1.1～R8.5.31）		
	山口 諒（R8.6.1～）		
16	高橋 靖典	一般社団法人 藤野エリアマネジメント	
17	山本 祐子（～R8.6.21）	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ	
	倉田 剛（R8.6.22～）		
18	前山 善憲	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	
19	池田 寛二（～R7.9.8）	法政大学社会学部 教授	
	糸久 正人（R7.9.9～）		
20	猿渡 達明	公募委員	
21	高村 るみ	公募委員	
22	山下 友梨子	公募委員	
23	奥平 麻由（～R8.4.30）	相模湖リゾート株式会社	
	中西 亮介（～R8.5.1）		
24	櫛見 大	東日本旅客鉄道株式会社	
25	山口 稔	神奈川つくい農業協同組合	